



東北支部年報

第 27号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15 日本生命仙台勾当台南ビル4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

巻頭言

— 健全な支部運営とその活性化に向けて —

東北支部長

倉田 光春

近年、学会を取り巻く環境が大きく変わりつつあります。本会以外の建築に関わる各種公益団体が出来、その棲み分けが求められております。しかしながら、本会への、社会的貢献を幅広く求めるニーズが、顕在化していることも事実であり、これまで蓄積してきた知見や経験豊富な人材の提供が求められております。一方、少子高齢化とこれまでの景気の後退の影響は避けられず、若手会員が減り、特に、法人・賛助会員が減少しています。このことは、これまで以上の、実質的な社会貢献と会員サービスの充実が求められており、支部においても同様であります。

ご承知の通り、本支部では、2002年から、岩手県を皮切りに、宮城県を除いた東北5県を巡回する年1回のイベントを開催しています。開催が2002年の岩手県であれば、その企画の冠名を「みちのくの風 2002 岩手」とし、支部研究報告会を中心に、招待講演会、シンポジウム、パネルディスカッション (PD)、東北建築賞表彰式と受賞者講演会並びに受賞作品展示会などを行います。招待講演は、出来るだけ若くて、現在活躍している方をお願いし、シンポジウム、PDは、開催地の方々に興味を持って頂けるように、市民向けのテーマを選んでいきます。「みちのくの風」は、今や支部の中心的事業であり、参加会員はもちろんですが市民の皆さんにも喜んで頂けるような、会員サービスの充実と社会貢献を目指したイベ

ントであります。したがって、健全な支部運営とその活性化という意味では、今後益々その重要性が増すものと考えられ、更なる充実を図る所存であります。

特に、2008年度大会から、大会作品発表会の場が設けられることに、また、この6月には、優れた教育業績1件・貢献4件に対する日本建築学会教育賞が制定されており、支部としてもこれに準じたいと考えています。支部作品発表会については、支部研究報告会と同時開催する方向で考え、教育賞については、東北建築賞の中に設けることが出来るのではないかと、また、リノベーションや街づくりなど受賞対象とならないものが増えるなど、多様化する応募の現状を踏まえ、その中身を精査して見直すことが早急の課題であります。

また、支部の研究委員会には、2002年に設けられた災害調査連絡会の他に8部会があります。しかし、その部会における研究活動が、一般の会員にはよく見えておりません。したがって、会員並びに市民の皆さんへのその成果の発信が大変重要であります。会員サービスの充実と社会貢献という意味で、その活動の場を設けることにより、この一連の支部研究活動がさらなる活性化につながればと考えております。これらは大変難しい問題です。

しかし、支部役員一丸となって、健全な支部運営とその活性化に向け、最善の努力をしてみたいです。会員の皆様のご協力とご支援を宜しくお願い申し上げます。

もくじ

○ 巻頭言	○ 第27回 東北建築賞(作品賞)選考報告	7	○ 研究部会活動報告	12
—健全な支部運営とその活性化に向けて—	○ 第17回東北建築作品発表会の報告	10	○ 支所だより	16
○ 日本建築学会創立120周年記念事業	○ 第16回東北建築賞表彰式及び展示会報告	10	○ 常議員会から	17
○ 企画記事	○ 「作品選集2007」東北支部審査報告	10	○ 支部役員名簿	18
○ 06 建築文化週間事業	○ 2006年度設計競技東北支部審査報告	11	○ 2007年度事業報告	19
○ 06 親と子の建築講座	○ 2006年度東北支部研究報告	11	○ 2007年度事業計画(案)	21
	○ 2006年度日本建築学会東北支部総会議事録	11	○ 法人・賛助会員	23

創立 120 周年記念事業 作業所見学会

東北「五橋 1 丁目マンション計画新築工事作業所」

常議員（社会文化担当）氏家清一

創立 120 周年の記念事業の一環として、一般市民及び会員に、建設会社の建築工事作業所を実際に見学して建築物の生産に関する理解を深めていただくことを目的に、平成 18 年 7 月 19 日（水）仙台市青葉区五橋に鉄建建設東北支店が工事中の「パークハウス五橋タワー新築工事」の作業所の見学会を開催しました。

当日は小雨模様の天候にもかかわらず、一般市民、会員、学生合計 32 名の参加があり、見学会では、まず、作業所会議室において、建物の概要、工事の進捗状況の説明があり、続いて、現在工事が行われている免震装置の特徴と種類、地震時の変形等について、採用メーカーの免震ゴム装置の説明、さらに模型を実際に振動させての説明がありました。その後、現場にて免震装置を身近で体感し、地震時の揺れを想定した壁体とその位置、25 年後に装置の交換を行うこと等の説明を受けました。普段あまり体験しない工事中の見学会であり、施工を実感した有意義な時間であったと考えます。

最後に見学会に協力頂きました鉄建建設作業所の皆様に御礼を申し上げます。

現場見学の様子



120 周年支部共通事業「美しくまちをつくる、むらをつくる」東北支部を終えて

東北支部審査報告

秋田県立大学 込山 敦司

東北支部では秋田県由利本荘市の協力を得て、支部会員向けに「ゆとりのある暮らしを楽しむむらづくり」として、由利本荘市由利地区東鮎川を対象に旧鮎川小学校の再利用提案を含めたむらづくり提案競技を行いました。また、市内小中学校生向け絵画コンクール「私たちが暮らす由利本荘市—こんなまちに住みたいな」、一般市民（由利本荘市民以外も応募可）向け写真コンクール「由利本荘市の魅力と美しさ」も行いました。表彰式は 10 月 28 日秋田県立大学本荘キャンパスにて、また作品展示は 10 月 28 日から 11 月 5 日まで本荘キャンパスエントランスホールにて行われました。

支部会員向け提案競技は応募総数が数点と少なく、ある程度の完成度の作品が 1 点のみであったことから、優秀作品 1 点のみの表彰となりました（最優秀、入選などは全て該当無し）。優秀作品となった田中宏幸氏のグループ（秋田県立大学大学院他）による提案は、旧鮎川小学校の再利用と周辺の集落のむらづくりを、オーソドックスな手法の組み合わせであるものの丁寧に検討した内容で、審査員全員から一定の評価を受けました。

絵画コンクールは市内小中学校から 175 点（中学校 2 点）の応募があり、最優秀 3 点、優秀 6 点、入選 18 点が選出されました。低学年の作品にも、環境共生や自然保護といった視点を感じる作品が多数みられたのが印象的でした（例：鳥や動物と一緒に暮らす家、森の図書館、緑や花にあふれるまち）。

写真コンクールは複数応募も含め 16 点の応募がありました。点数は少ないながら、地元では様々なコンクールに出展されているアマチュアカメラマンによる作品がほとんどで、最優秀 1 点、優秀 2 点、入選 2 点が選出されました。最優秀作品「忘れじなその名滝沢」（須田晃司：由利本荘市）は旧西滝沢小学校の美しい雪景色でした。一方、他の作品に建物や街並みを題材としたものは数点しかなく、自然の風景、特に鳥海山の風景が多かったのが今回の特徴と言えます。本学会主催の写真コンクールとしては、やや残念な結果と言わざるを得ません。

角館のような観光地ではない由利本荘市ですが、かやぶき屋根の民家、町家、廃校となった木造校舎など、価値ある建築は少なくないように思われます。今後もこうした機会をつうじて、地域の方々に建築やまちに対する関心を持っていただければと思いました。

「みちのくの風 2006 秋田」開催報告

常議員（総務企画担当） 山田 寛次

今回で 5 回目となる日本建築学会東北支部による「みちのくの風」は、2006 年 6 月 17 日～18 日にかけて、秋田県生涯学習センター分館「ジョイナス」において開かれた。会場は、秋田市内で最も美しい千秋公園の中にあり、樹齢 100 年を超える大槻の新緑に囲まれた旧佐竹藩居城の跡地の一角に位置している。そのような環境の中で例年通り活発な活動が行われた。

研究活動としては、第 69 回目となる東北支部研究報告会が開催され、発表題数は 124 題、発表会参加者数は延べ 280 名を数えた。5 年前に秋田県由利本荘市(県立大学)で開催された時と比較すると発表題数は同程度であるが、明らかに参加者数は増えており、研究発表参加者の面でも「みちのくの風」の効果が現れたと言える。発表論文は日本建築学会東北支部研究報告集第 69 号(二分冊)として刊行された。また、あわせて、6 月 18 日の午前最後のセッションで、各分野で最先端の研究を行っている研究者による招待講演が行われた。計画系では曲渕英邦助教授(東京大学生産技術研究所)により「一箇の家ー都市装置としてのハノイ伝統的都市住居、その再開発」という題目で、構造系では大森博司教授(名古屋大学大学院環境学研究科)により「構造形態創生法と構造デザイン」という題目で、講演がなされた。参加者数はそれぞれ 50 名以上で、部屋の定員を超える盛況であった。

「みちのくの風」の最大の特徴である市民との交流は、6 月 17 日、村上周三会長の参加を得て、会長による基調講演と関連するパネルディスカッションを行った。「地球環境と建築技術者」という総合テーマの元で、基調講演題目は「地球環境とサステナブル建築」、パネルディスカッションは「地球環境時代のまちづくりーWinter City からの発信ー」という題目であった。司会は長谷川兼一准教授(秋田県立大学)、コーディネータは松本真一教授(秋田県立大学)、パネリストには伊香賀俊治教授(慶応義塾大学)、佐々木孝氏(TPS まち創り研究室)、北原啓司教授(弘前大学)を迎え、コメンテーターは村上周三会長にお願いした。参加者は会場一杯の 120 名で、地方都市における建築技術者が出来る地球環境問題への貢献について熱い議論が戦わされた。

パネルディスカッションに引き続き、約 80 名が参加して、第 26 回東北建築賞表彰式が行われた。受賞作品は作品賞 2 点(鶴岡アートフォーラム、道の駅「上品の郷」)、作品奨励賞 1 点(秋田拠点センター・アルヴェ)、研究奨励賞 1 点(西村公宏氏)で、それぞれの受賞者の記念講演(各作品 10 分)が行われた。その後、場所を秋田ビューホテルに移し、小野徹郎副会長と受賞者を囲んで、研究発表者、地元関係団体、支所、支部関係者ら 53 名が懇親を深めた。

最後に本年度の「みちのくの風」の準備にご尽力いただいた関係各位に謝意を表し、報告を締めくくる。

'06 建築文化週間事業

建築文化週間 2006

ー地震に強い建物“中間層免震”の最先端の現場「仙台共同ビル」を訪ねるー

東北支部施工部会 鈴木 孝之

日時：2006 年 10 月 28 日(土)

会場：(仮称)仙台共同ビル新築工事作業所(大成・清水・松井・佐藤建設 JV)

この見学会は、仙台市で初めての“中間層免震建物”のシステムを多くの建築人関係者に広く紹介するために企画され、官公庁、大学、高専、高校、設計事務所、専門工事会社などから見学応募があり、秋晴れの当日、20 名の参加者と 8 名の関係者が企業体事務所に集り実施された。



まず、大成建設(株)耐震推進部長の杉崎氏より、日本における免震建物の現状や免震構造の特徴、そして当建物の地下外壁と免震装置の設置に関する説明が簡潔で丁寧な説明がパワーポイントを用いてされた。この建物の特徴である既存建物の基礎と地下外壁を残しその中に新築の地下室を設ける設計に対して、免震装置は基礎下ではなく地下 1 階の柱頭部に設置して敷地の有効活用と建設コスト削減を実現できたとのことであった。

続いて建設工事企業体作業所長の西河氏より、建物概要の説明と地下工事の進め方と免震装置設置工事の施工技術に関する説明があった。特に、上すべり支承の設置の水平精度確保が大切だったことなど工事に関するいろいろな苦労話があった。この説明の後、設計にあたりどのような地震波を入力したのか、水平・垂直のクリアランスの考えかたなど質疑があり、それぞれの専門家より説明があった。

その後、免震装置を設置してある地下 1 階に降りて装置現物を見学した。免震装置は見学者に内部が見えるよう透明の板で覆われており、それぞれが巨大な建物を支える装置をじっくり見学できた。続いて仕上げ工事が始まった 5 階に上り、モックアップや空調システムやカー

テンウォールのディテールを見学した。

近い将来、宮城県沖地震が発生する可能性が高いと発表されている仙台地区において、免震建物の発展と普及のために最先端の構法と施工技術を見学できたことは大変有意義な機会であった。

最後に、お忙しい中、当見学会のために作業所の開放と講師を務めていただいた大成建設の関係者の方々に紙面を借りて謝辞を表します。

説明会の様子



現場見学の様子



会場として見学会を実施。参加者は合計33名。当日は好天に恵まれ支部前集合解散。見学会は予定通り進捗したが、帰路、仙台市内の渋滞に遭い支部前到着が予定より15分程遅延。作業所は最終仕上げ段階の状況。見学会参加者はJV準備の保安帽と安全ベストを着用。見学会中の事故等問題発生なし。当該工事は鋼管を楕円スパイラル状に曲げ加工されたフレームにサスペンション形式で張られた膜構造のホーム屋根である。一見単純に見えるこの構造がどのように構成され施工されたかを解説。膜体の支持フレームである鋼管がどのようにしてスパイラル状に加工されたのか、実際の鋼管を溶接したモデルを展示して解説された。通常は一般の方々が触れることのない、建築工事で使用する鉄筋・鉄骨、膜材に直接触って戴き、建築材料の多様性を感じて戴いた。特に今回は鉄道施設であることから、架線やレールなど身近に見ながら通常は触れることの出来ない材料も手に取って実感して戴いた。尚、本工事で使用されている膜材には紫外線による変色作用があり、その変化を実感して戴くために希望者にサンプルをお持ち帰り戴き、日光による変色過程を体感していただく事とした。建築技術のみではなく施工管理や現場の運営について作業所長から説明をして戴き、大雑把に思われがちな工事現場での施工や品質確保が大きく進歩している事を感じ、建築工事への理解を深めて戴いたと思う。子供さんの参加もあり、皆、大きな保安帽を着用しての見学でサイズ調整に手間取りながらも楽しそうな様子や、説明対応した作業所長に事細かに質問を繰り返し、興味を抱いて戴いた模様が印象に残る。



「伊達なサステナブル探訪」実施報告書

宮城教育大学 菅原正則

(1) 実施日

2006年10月28日(土)10:00~15:30。よく晴れ上がった、気持ちの良い一日でした。

(2) 講師・スタッフ・参加者

講師を務めていただいたのは、田中直樹さん(田中直樹設計室)と樋口康裕さん(樋口建築研究所)。

他に、地元の自然食料理研究家の本田洋子さんとそのお仲間のみなさんにはお昼のご馳走を準備していただきました。昼食の費用は参加費として集金しましたが、それ以上の内容で、古代米の入ったやくぜんめし、野菜たっぷりのだて晩秋汁、晩秋食材のかきあげ、各種煮物や手作りの漬

見学会事業報告 (仙台空港駅)

東北支部施工部会 渡邊和之

2006 親と子の建築講座・建築ウォッチング
仙台空港見学会

“膜構造建築(スパイラルフレームと膜)の具現化と施工”

2006年10月21日(土)

仙空、仙台空港S t. 本屋他工事作業所
(熊谷・三井住友・橋本J.V. (作))

2007年3月18日に開業予定の仙台空港新線仙台空港駅舎を

け物、くわ茶に果物まで用意され、大いにもてなしていただきました。また食後には「ざ・WAHUU (わふーと読む)」のみなさん(田中剛さん、八巻幸一さん、阿部善武さん)にコンサートを開いていただきました。尺八とコントラバスという風変わりな編成で、曲目も「荒城の月」から「ジュピター」まで多様なジャンルに渡り5~6曲、楽しいトークと共に披露して下さいました。

参加者数は、一般参加 24 名+スタッフ 14 名+ご近所のみなさんといった内容でした。

(3) 行程・見学した住宅

10:00 福島駅西口を出発。

11:00~11:30 **見学1** 霊山町『平成の民家シリーズ・斎藤邸』。講師である樋口さんによる設計のこの住宅は、自然素材と伝統工法、そして北側の神社などとの景観の連続性にこだわった OMソーラーの家で、ふくしま住宅コンクール第13回最優秀賞を受賞されています。OMソーラーの特性を十分に活かして吹き抜けとガラスを多用し、開放感と光に溢れる空間となっていました。回遊性のある間取りも開放感に役買っており、玄関やキッチンカウンター、ウッドテラスに見られる三角形も動線をゆるやかに導く仕掛けになっていました。構造材の断面も大きく、伝統民家を彷彿とさせるまさに現代のサステナブルな長寿命住宅であると感じました。

12:00~15:00 梁川町『静戸の家』にて**昼食懇談会および見学2**。昼食懇談会の様子は前述の通り。もう一人の講師である田中さんによる設計のこの住宅は、RC造の外周に木造を配した入れ子構造によって安定した熱環境と耐震性を実現しており、第6回 JIA 環境建築賞などを受賞されています。圧巻なのは居心地の良いスケールとして吉村順三が推奨したという4間×4間×2層吹き抜けの居間です。そしてこの周りに各室と廊下や縁側、小屋裏が配され、空間的にも入れ子となり、内外を緩やかにつなぐ役割を果たしているように見えました。建具の操作により真夏でも冷房不要で、真冬も薪ストーブ1つで充分とのことでしたので、そういう時季に見学し環境性能をより実感できたらと残念に思いました。

見学3の予定だった伊達町『平成の民家シリーズ・芳賀邸』は、都合により取りやめ、代わりにスライドによる説明が行われました。

15:30 見学箇所が減ったことや参加者の希望もあり予定より早めに福島駅西口に到着し、無事解散いたしました。後日、参加者の方から感想をいただきましたが、満足していただけたようで大変嬉しく感じております。最後になりましたが、紙面をお借りして関係各位と参加者のみなさまにお礼申し上げます。



写真1
平成の民家シリーズ・斎藤邸に向かう見学者



写真2
昼食の風景
(中央奥の右が本田洋子さん、左が樋口康裕さん)



写真3
ざ・WAHUUによる演奏会



写真4
静戸の家の居間でスライドの説明をする田中直樹さん(右上端)

’ 06 親と子の建築講座

よねざわレトロ館めぐり

山形支所事務局 柴崎太門

平成18年10月1日に米沢市において2006親と子の建築講座「よねざわレトロ館めぐり」を開催しました。本企画は、山形県内に数多く残る歴史的な建築物を親子で歩いて見学し、建築文化に興味を持ってもらうことを目的としており、5回目を迎えた今回は、これまでの山形市から米沢市に会場を移して開催しました。

米沢市は、上杉家の城下町として歴史的建築物が数多く残っていると同時に、明治から昭和初期にかけての洋風建築物も現存しており、レトロ館めぐりにふさわしい歴史的風情のある街です。

今回は国指定重要文化財の旧米沢高等工業学校本館、昭和初期の木造校舎を今に残す九里学園高等学校、古くからの造り酒屋である東光酒蔵資料館の3つの建物を巡るコースを設定しました。講師として山形歴史たてももの研究会の方々に協力していただき、時代背景や建築様式など詳しい説明を交えながら見学しました。

旧米沢高等工業学校ではルネッサンス様式を基調とした外観デザインや天井装飾の一部を換気口とする機能的な工夫等に当時の建築の奥深さを実感してもらえたようでした。

九里学園の木造校舎は親世代では懐かしい印象を持った方が多く、子世代には逆に新鮮さがあったようで、1番印象に残った建物に挙げる方が多かったようです。東光酒蔵資料館では、1棟140坪の大きな土蔵や昔ながらの造り酒屋の様子を見学しました。

また、景観まちあるきということで、建物を巡るルート歩いて見学し、街なみや景観について、感想を聞いたところ、「古い蔵が街の所々に残っていて雰囲気がいい」とか「歩いてみることで、新たな発見があった」等の多くの意見をいただきました。

全体をとおして、参加者の皆様からは「改めて山形の歴史建物のよさや街なみや景観に対する発見があったよかった」などの声を多くいただき、子供達にとっては普段あまり触れる事が無い歴史建物を見る良い機会となり、大人の参加者にとっても歴史的建築物の保存・活用やそれを巡る街なみや景観に対する意識を持つようきっかけとなる講座を開催できたと感じています。

ど直感的に操作を進めているようでした。参加者にはそれぞれ自由なイメージを入力してもらい、小住宅ながら個性豊かな作品が出来上がりました。作品は、内・外観パース(JPEG)とアニメーション(AVI)をCD-ROMに保存して配布しました。本講座を通じ、親子でコンピューター活用という側面から、

建築の楽しさを感じ、興味を持ってもらう良い機会になったのではないかと思います。

コンピューターによる住宅モデル作成

山形支所事務局 柴崎太門

平成18年10月22日に山形市内において2006親と子の建築講座「コンピューターによる住宅モデル作成」を開催しました。本企画は、建築3次元CADを使用し、自由なデザインで小住宅の入力を行い、内・外観パースやウォークスルーアニメーションの作成までを行っていただき、建築におけるコンピューター活用事例を体験してもらうことと、親子で実際に手に触れながらもの作りの楽しさを感じてもらうことを目的に毎年開催しております。

最近の子供たちにとっては、ゲームやインターネットの利用で身近な存在であるコンピューターが建築分野でも活用されていることを体験的に知るとともに、建築環境に対し、「自分で考え自分でつくれる」可能性と「自分の考えを発信できる」可能性を感じてもらい、講座を通じて建築デザインに関心を抱いてもらうきっかけとなっているのではないかと考えております。

講座の講師には、毎年県立産業技術短期大学の先生にご協力頂き、また会場も同大学の教室をお借りして開催しております。コンピューターが普及している昨今、子供たちは手馴れた手つきでコンピューターを扱い、短時間のうちに操作に慣れ、小住宅ながら個性豊かな作品が出来上がりました。また、親子の間で活発な意見交換もあり、親子のコミュニケーションも図られたのではないのでしょうか。

各参加者の作成したパースやウォークスルーアニメーションはCD-Rで後日配布しており、自分で作った作品を親子で繰り返し楽しんでもらうことで、さらに建築に興味をもってもらえるのではないかと考えております。



河原町・南材木町まちたんけんワークショップ

～地域の歴史をいかしたまちづくりを考えよう～

建築と子供たちネットワーク仙台 渋谷セツコ

開催日：平成18年7月26日(水)

開催地：仙台市若林区河原町・南材木町

見学場所：針惣、武田染工場、小西家

仙台市の旧市街地の南側に位置する河原町・南材木町は、伊達政宗がこの付近に若林城を築城して以来、旧城下の南の玄関口、また市場町として奥州街道沿いに発展したまちである。

藩政時代は、材木業や薬種業を営む商人、筆や刷毛をつくる職人などが、明治・大正期にはレンガ製造会社、バス会社、鉄道会社、電気会社などを経営する実業家を輩出し、街道沿いには立派な店蔵が建ち並んでいた。現在はほとんどがマンションなどに建て変わっているが、良く見ると、仙台市で最も古い町屋といわれている旧丸木商店（天明元年建築）などいくつかの店蔵が残っている。これらの店蔵は、仙台市の景観重要建造物として指定され、保全活用が図られているところである。

このような状況の中で、地域のまちづくりや将来のまちの担い手である子供たちに、歴史的建造物に触れてもらいながら、人々とまちとの係わりなどに関心を抱いてもらい、将来のまちづくりに歴史を活かす視点を培ってもらうことを目的に行ったものである。

公募した小学生と社会人の合計 20 人が一緒になって、「まちの宝物」、「気になるもの」をさがすために、あらかじめ準備をしたガイドマップにしたがい、インスタントカメラを用いながら、地元の方々にインタビューをしたり、まちの良いところをさがしたりして、グループでまちを探検した。

探検終了後、各自報告書をまとめ、グループごとに発表しあって、体験を共有した。

第 27 回 東北建築賞 [作品賞] 選考報告

選考委員長 小林 淳

1. 応募作品数

・小規模建築物部門：	5 点
・一般建築物部門：	17 点
計：	22 点

2. 選考経過

(1) 事前打合せ会議（2006 年 9 月 14 日、於；日本建築学会東北支部会議室）

応募作品の数とその内訳を確認した上、東北建築作品発表会の運営方法および東北建築賞 [作品賞] の選考基準などについて事前打合せ会議を行った。

(2) 東北建築作品発表会（2006 年 9 月 30 日、於；仙台グランドホテル 7 階サングラスホール）

第 1 次審査（同日、於；仙台グランドホテル 7 階会議室 a）

第 17 回東北建築作品発表会において応募全 22 作品の発表が行われた。12 分という限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく終

了した。時間厳守に御協力頂いた発表者諸氏に敬意を表したい。

東北建築作品発表会の終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第 1 次審査に入った。今回の審査では、現地調査の対象数を決めることから始め、小規模作品部門 3 点、一般作品部門 10 点を限度とすることで合意が得られた。選考の手順は、発表会での印象に基づく第 1 回目の投票を行い、ある程度の数に絞り込んでから具体的な議論に入ることとした。

このような手順を経て、小規模建築物部門では 3 作品、一般建築物部門では 10 作品が選定された。また、現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された 13 作品について現地審査の分担を決めた。その後、現地において確認すべき点を検討し、作品の管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整を行うこととした。

(3) 現地審査

現地審査は 10 月 30 日～11 月 17 日までの短期間に実施された。これは、現地審査の印象に与える気象条件などの影響を極力少なくするとの配慮によるものである。なお、現地審査の対象となった小規模建築物 3 件のうちの 1 件から、受賞辞退の申し入れがあり、現地審査を中止した。

(4) 第 2 次審査（2007 年 1 月 28 日、於；日本建築学会東北支部会議室）

第 2 次審査にあたり、選考手順に関する協議を行い、段階的に候補作品を絞り込んでいくという方針が採用された。その後、候補作品の現地審査に当たった各選考委員からの審査報告がなされ、これに対する質疑応答が順次行われた。各作品についてさまざまな見地から多面的な意見が出される中、作品賞と奨励賞の位置付けが議論された。特に奨励賞については、作品賞の次点という位置付けではなく、建築としてある程度のレベルを持っていると同時に特色のある作品とすること、奨励するポイントが明確であることが必要であるとの合意に達した。

その結果、作品賞として一般建築物部門から 2 点、奨励賞としては、一般建築物部門および小規模建築物部門それぞれについて 1 点、計 2 点を選定した。

3. 選考結果

作品賞 しもきた克雪ドーム・ウェルネスパークセンターハウス

【所在地】青森県むつ市真砂町 93-6

【設計監理】原広司+アトリエ・ファイ建築研究所
大成建設株式会社一級建築士事務所

【施主】しもきた克雪ドーム：青森県
ウェルネスパークセンターハウス：むつ市

【施工】しもきた克雪ドーム：大成建設株式会社
ウェルネスパークセンターハウス：
建築 むつ特定建設工事共同企業体

電気 ユアテック・工藤 特定建設共同企業体
空調 谷川設備工業株式会社
衛生 青水・大建・菊池 経常建設共同企業体

作品賞 秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校

【所在地】秋田県横手市大沢字前田 147-1
【設計監理】日本設計・長岐・ミツイ設計共同企業体
【施主】秋田県
【施工】東急・創和・横手特定建設工事共同企業体・他

作品奨励賞 山のアトリエ

【所在地】山形県山形市八森 98-1
【設計監理】鈴木敏彦
+東北芸術工科大学プロダクトデザイン学科
鈴木研究室
【施主】鈴木敏彦
【施工】セルフ・ビルド

作品奨励賞 ～浮遊園舎～ なかじま幼稚園

【所在地】福島県西白河郡中島村
【設計監理】宍見美津男設計室
【施主】中島村
【施工】三柏工業㈱

4. 講評

今回の応募作品数は総計 22 と昨年を大きく下回り、審査・選考の各過程において、本顕彰事業の存続に対する危惧感を含めた議論となった。これに対応して、作品賞・作品奨励賞の位置付けに関する熱のこもった議論があったことは特筆すべき点である。昨年度の講評にもあったように東北地方の建築界が低調というわけではなく、一方では、本事業の位置付けに対して、より明確なものが求められているのではないかと意見が委員の大勢を占めた。今後、他の顕彰事業との関連を整理し、魅力のある顕彰制度の創出を目指す必要がある。

今回の審査では、建築作品としての完成度と東北地方の地域性をどのように関連付けて評価すべきかが重点的に議論された。デザインの合理性ばかりでなく、環境との調和、構造的配慮、そしてさらには経済性なども建築を評価する重要な要素となるからである。特に、リノベーションや街づくりなどの観点からの応募も見られたが、それらに対する審査基準を定量的に示すことは極めて難しく、業績としては評価できても建築として評価すべき項目が明確にできないという問題点も指摘された。また、作品奨励賞については、特色ある提案を奨励することが目的であり、表彰件数を 2 点としている現行規定の見直しが必要との提案が成された。

審査の過程で痛感したのは、建築作品を評価することが

いかに難しいかという点であり、惜しくも受賞を逸した作品にも特筆すべき内容を備えたものが数多くあったということである。現地審査を含めた選考過程を経て本年度の作品賞および作品奨励賞の決定に至ったが、次回以降も、さらに多くの方々が応募されることを切に希望する。

以下に入選作品について個別の講評を記すが、これは現地審査に当たった選考委員が起こしたものを参考に、選考委員長が纏めたものである。

【作品賞】

◇ しもきた克雪ドーム・ウェルネスパークセンターハウス

釜伏山を背に陸奥湾に沿って広がる下北半島むつ市にあるこのドームは、海岸線に釜伏山をデフォルメするかのごとく力強く佇んでいる。北の地には斬新で且つ安定感があり、その上シンボリックな建築が望まれる。霊山恐山をイメージさせる「ハルニレの中庭」がドーム棟と管理棟を機能的に分離、融合するとともに、ドームの廻りはヒューマンスケールで構成される内外二重回廊が配置されジョギングが楽しめる。冬場の雪堆積場所である屋上も、非積雪期には運動スペースとして機能させてある。

ドーム内部は、二重幕を通して差し込む柔らかな光で満たされ、不思議な浮遊感を感じる。この大空間と周囲とのスケール感の対比は絶妙である。管理棟は、回廊部分の高さと揃えられ、低層の広がりや水平線を強調し地面との一体感をつくり出している。それはドームのボリュームと相まって心地よいバランスを北の地に根差している。

強く美しいフォルムを生み出した設計技術と現場での施工技術は、東北建築賞〔作品賞〕として称賛に値するものと評価された。



しもきた克雪ドーム

【作品賞】

◇ 秋田県立横手清稜学院中学校・高等学校

雪深い地域ではとかく建物は閉じてしまう傾向にあるが、本作品は積極的に「開く」ことが意識されている。建物は「キャンパスモール」を取り囲むように計画され、そこに実習室等が配置されているため、各学年の活動の様子を伺い知ることができる。この“しかけ”は、生徒が自らの活動を見せる工夫を誘発し、様々なシーケンスを生み出すきっかけを与えており、教育の場として魅力ある空間が創出されている点が高い評価を得た。また、利用者が設計者の意図を十分に理解し運用している点も評価できる。建物内部には効果的に木材が利用され、体育館の壁面に施された杉材のルーバーは美しく、吸音効果も期待できる。また、雪を冷熱源とする冷房システムの導入は、積雪地ならではの試みであり、省エネルギー効果が適切に評価されている。各住棟の機能的な配置は、外観のボリュームに重たい印象を与えるが全体の評価を下げるものではない。以上を総合し、本作品は東北建築賞〔作品賞〕に十分に値するものと評価された。



秋田県立清稜学院中学校・高等学校

【作品奨励賞】

◇ 山のアトリエ

モバイル・アーキテクチャーを謳った作品である。重機を用いずに大人二人で解体、再組み立てが可能な「シェルター」を「エアストリーム」と呼ばれるトレーラーハウスが補完し、一対の空間でアトリエの機能に対応する。土地、電気、水があればどこにでもアトリエが出来るという主旨である。約7m×4.2mの「シェルター」が接客・仕事のハレの場となり、改造した「エアストリーム」が給排水を受け持つケの空間となる。

今回評価の対象としたのは鋼板製の「シェルター」と茶室を始めとするアルミの調度品の精度の高さとデザイン上の工夫、居室空間の構成方法である。部品が工場生産を前提としてデザインされアッセンブルされるために、一般的な建築物とは異なる精度を獲得している一方で、ハレとケの機能分けや居室空間をシェルターと調度とに分離する構成法は、寝殿造りなどの日本の伝統的な住宅を想起させる。現

在の「シェルター」は夏場の使用を前提として断熱性能を欠き、通年の使用に耐えられないのに建築作品として評価できるかという疑問も出されたが、プロダクトデザインのアプローチと日本の伝統を思わせる空間構成法は新たな建築空間の可能性を感じさせるに十分で、作品奨励賞に値すると評価された。



山のアトリエ

【作品奨励賞】

◇ ～浮遊園舎～ 中島幼稚園

現在、流行しているシンプルな建築ではない。むしろ装飾的な要素や物語的な構成を活用している。建物への導入部では、雲をイメージした天井や虹の橋に見立てられた通路を経由し、夢の国としての園舎へと続く。列柱にある円形の穴は、のぞいたり、隠れたりなど、子供の遊び心を誘う。環境への配慮も興味深い。OMソーラーシステムを使い、ハイサイドの開口からは、季節に応じて効果的に光や風を室内に導く。最大の見所は、「天空の森」と命名された空間である。斜めにのびる頬杖は、森のイメージを喚起する。村の公園もみの木の枝をつけたまま、柱に使い、木登りができる。またロック・クライミングの壁を置く。遊具と合体した建築。セキュリティの問題が騒がれるなか、園児を過剰に保護するのではなく、彼らの身体能力を高める経験を生む。記号的なデザインによる受動的なテーマパークではない。あえて世論に流されまいとする建築の批評性を評価され、作品奨励賞に値するとされた。



～浮遊園舎～中島幼稚園

第27回東北建築賞〔作品賞〕選考委員会

委員長 小林 淳 秋田県立大学建築環境システム学科
委員 奥田 真治 東北電力株式会社
山田 寛次 秋田県立大学建築環境システム学科
五十嵐太郎 東北大学大学院都市建築学専攻
千葉 政継 宮城大学事業構想学部デザイン情報学科
西野 敏信 東北工業大学デザイン工学科
長谷川兼一 秋田県立大学建築環境システム学科
相羽 康郎 東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科
前田 卓 有) アトリエアケー級建築士事務所
高橋 敏 岩手県建築設計事務所協会
宮腰 直幸 八戸工業大学建築学科

第17回東北建築作品発表会報告

常議員(社会・文化) 宮腰 直幸

第17回東北建築作品発表会は9月30日にせんだいメディアアテークの7階のスタジオシアターにて行われた。発表作品は東北各地より小規模部門5作品、一般建築部門17作品の合計22作品の発表が行われた。残念ながら昨年度の33作品から比べると発表点数は減少したが、昨年にも増してさまざまな種類の建築作品が発表された。発表会は支部長挨拶、小林選考委員長による発表にあたっての注意の後、設計を担当した各応募者の説明、質疑応答により進行した。この作品発表会は第27回東北建築賞の一次審査を兼ねており、発表のプレゼンテーションも審査の対象とするため各審査員からは活発な質問がなされ、議論が交わされた。会場では審査員以外にも一般の参加者や大学生などが参加し、盛況であった。本会開催にあたっては、(社)日本建築家協会東北支部、(社)建築士事務所協会(東北各県)、(社)建築士会(東北各県)、(社)東北建設業協会連合会のご後援を頂いていることを報告に加えさせていただきます。

本会開催にあたっては、(社)日本建築家協会東北支部、(社)建築士事務所協会(東北各県)、(社)建築士会(東北各県)、(社)東北建設業協会連合会のご後援を頂いていることを報告に加えさせていただきます。

第26回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員(社会・文化) 宮腰 直幸

第26回東北建築賞表彰式は「みちのくの風2006秋田」の初日、6月17日に秋田県生涯学習センター分館「ジョイナス」多目的ホールにておこなわれた。東北建築賞を受賞した作品は作品賞2点、作品奨励賞1点、研究奨励賞1点の合計4点である。表彰式は作品賞、作品奨励賞について武澤審査委員長より選考経過報告と講評が行われ、次に研究奨励賞について月舘委員長より選考経過説明及び講評が行われた。

続けて受賞者各者には倉田支部長から賞状、賞杯が贈られた。受賞作品についてはスライドにより紹介が行われた。また、受賞作品のパネル展示会は6月17日、18日の2日間、ジョイナスにて行われた。その後、東北建築作品展として東北6県の支所などで巡回展示された。本表彰式、講演会、パネル展示会は、ご後援の各位、委員長はじめ各選考委員、秋田支所及び支部の関係者・スタッフ・そして、受賞者並びに作品応募者の方々の準備と協力により開催することができたものであり、各位にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

「作品選集2007」東北支部選考経過報告

東北支部選考部会長 針生 承一

19作品の応募に対して、委員7名(2名欠席)による第1次選考での協議と投票の結果、10作品を現地対象作品として選定した。

鶴岡アートフォーラム
かとう整形外科クリニック
福島県立いわき光洋高等学校
秋田県横手清陵中学高等学校
鶴岡キャンパスセンター
こもれびの降る丘 遊楽館
資生堂仙台ビル
福島県伊達市役所・保原総合支所
羽二生クリニック
飯舘村立飯樋小学校

第1次選考の現地審査は2日にわたり行なわれた。1日目は福島県の3作品と岩手、秋田、山形の3作品の2つに分け、委員もまた4名と3名の2班に分け現地審査をし、2日目は宮城県の3作品を全委員で現地審査を行なった。

第2次選考では、10作品のうち2作品は、他の8作品に比べ地域の優れた建築として評価するのは難しいとされ、残る8作品を支部推薦作品として選定した。そのうち3作品は、地域に根ざそうとする設計態度を特に評価しAランクとした。他の5作品はAランク達していないという点でそれぞれB、Cランクとして選定している。

本年は例年よりも、応募者が多く、地域性を豊かに表現した作品が多く、入選と選外の差はわずかと思われ、選定は難しかった。

Aランク 鶴岡アートフォーラム
こもれびの降る丘 遊楽館
飯舘村立飯樋小学校
Bランク 福島県立いわき光洋高等学校
資生堂仙台ビル
Cランク かとう整形外科クリニック
秋田県横手清陵中学高等学校
鶴岡キャンパスセンター

2006 年度日本建築学会設計競技

東北支部審査報告

八戸工業大学 月舘 敏栄

「近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生」をテーマとした2006年度日本建築学会設計競技の東北支部選考会は、7月14日に日本建築学会東北支部を会場に武澤委員（東北文化大）、石井委員（東北工大）、山畑委員（東北芸工大）、槻橋委員（東北工大）、月舘委員（八戸工大）の5人の選考委員により行われた。委員の互選により、選考委員長に月舘委員、議事録作成者に槻橋委員を選定した。応募9作品は、東北地方に残る近代産業遺産を精査して、造船所跡地、干拓地、トンネルや鉱山跡地など多様なブラウンフィールドを設定していたことがおもしろかった。

支部選定作品は、応募作品の3分の1程度の規定に従って3作品の選考を行った。5人の委員が各3作品を推薦した結果、全委員が推薦した支部番号4Feel Natureと4人の委員が推薦した支部番号8タガイチの2作品を選出した。3作品目は、東北らしいブラウンフィールドである農業遺産に着目した支部番号6緑力共存とした。今年度のテーマは、近代産業遺産の残る設計対象地の選定、活性化手法の研究が大きな課題となり、設計内容・表現まで力が及ばなかった印象が残った。

「2006 年度東北支部研究報告会」報告

常議員（学術・教育） 野内英治

2006年6月17日（土）、18日（日）の二日間にわたり、第69回となる東北支部研究報告会「みちのくの風2006秋田」が開催された。秋田県生涯学習センター分館“ジョイナス”を会場に、発表題数124題（計画系71題、構造系53題）の研究発表が行われた。昨年度の発表題数が145題であることを考えると若干応募総数が減少したことになる。内訳は、環境36題、計画35題、材料施工14題、構造39題である。発表方式は例年通り、発表7分、質疑応答3分の計10分であった。また、これらの発表論文は、「日本建築学会東北支部研究報告集第69号（計画系・構造系の2分冊）」として発行されている。

今回も最終日に招待講演を実施した。計画・環境部門では、「一箇の家—都市装置としてのハノイ伝統的都市住居、その再開発」と題し、東京大学生産技術研究所助教授の曲渕英邦先生に講演頂き、また、構造・材料部門では、「構造形態創生法と構造デザイン」と題し、名古屋大学大学院環境学研究科教授の大森博司先生に講演いただいた。招待講演はそれぞれ50名程度の参加者であった。

期間中盛況のうちに無事終了することができ、関係各位には深く感謝申し上げたい。なお、プログラム編成に際し、発表時間の割り振りに不手際があり、ご迷惑をおかけした。

この場を借りて深謝申し上げる。



写真：ジョイナス正面玄関

2006 年度日本建築学会東北支部総会議事録

記録担当：出村克宣

日時：2006年5月13日（土） 午後4時より
場所：せんだいメディアテーク 7階スタジオシアター
出席者：近江隆支部長以下84名（委任状含む）

資料：

資料No.1：日本建築学会東北支部年報26号

資料No.2：

2005年度日本建築学会東北支部財産目録

2005年度日本建築学会東北支部収支決算書会計監査報告書

2006年度日本建築学会東北支部収支予算書（案）

舟木尚己常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 出席者数及び委任状の確認

出席者32名、委任状52通、合計84名の確認があり、東北支部会員1342名の1/30（44名）以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

2. 支部長挨拶

近江隆支部長による挨拶があった。

3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名者として、氏家清一氏及び大沼正昭氏が選出された。

4. 議事

東北支部規程により、近江隆支部長が議長を務め、以下の事項について審議された。

(1) 2005 年度事業及び会計に関する件

1) 2005 年度事業

大野晋常議員より、資料 No. 1 の支部年報 17 及び 18 ページの「2005 年度事業報告」にもとづき、2005 年度事業内容が報告された。

2) 2005 年度収支決算

八巻正信常議員より、資料 No. 2 の「2005 年度日本建築学会東北支部財産目録」及び「2005 年度日本建築学会東北支部収支決算書」にもとづき、2005 年度収支決算が報告された。

3) 会計監査結果

高砂秀敏支部監事より、資料 No. 2 の会計監査報告書の通り、2005 年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

2005 年度事業、収支決算及び会計監査結果に関する報告内容について審議した結果、特別な問題指摘もなく、これらの事項が承認された。

(2) 2006 年度事業及び会計に関する件

1) 2006 年度事業計画 (案)

大野晋常議員より、資料 No. 1 の支部年報 19 及び 20 ページの「2006 年度事業報告」にもとづき、2006 年度事業計画が説明された。

2) 2006 年度収支予算 (案)

横山直樹常議員より、資料 No. 2 の「2006 年度日本建築学会東北支部収支予算書 (案)」が説明された。

2006 年度事業計画 (案) 及び収支予算 (案) について審議した結果、特別な問題指摘もなく、承認された。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2006 年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

以上

研究部会活動報告

歴史・意匠部会

部会長 安原 盛彦

白井晟一作品の保存

この一年も建築物の保存という問題が日本全国で発生していた。今後も発生し続ける問題である。いくら建築学会から要望書を出しても保存される確率は極めて低い。しかし出せばその建物の存在が世間に知れる。大切なことである。

要望書は出していないが、近いうちに移築保存がなされる予定の建物が秋田県にあるので紹介したい。白井晟一の作品で渡部邸 (試作小住宅, 1952-53, 木造平屋) というわずか 14 坪ほどの住宅が東京世田谷区上野毛に建っていた。

一昨年、突然電話があり、その建物保存の希望を所有者の一人である渡部三喜氏 (医師) からうかがった。渡部邸はクライアントが秋田県湯沢市の渡部家であり、代々、子弟の東京での勉強のためにつくられたものである。この時も姪の方が音大に通うため使われていた。

渡部氏は電話口で熱っぽく語られ、是非、白井晟一に興味を抱く学生や研究者の方々に見学出来るような住宅として保存してほしい、そのように使って頂ける方、あるいは法人、団体にお譲りしたいとのことであった。

私も何とか残して欲しい旨を申し上げ、銀行などを通じいろいろ手を尽くし探してみたが見つからない。いかんともしがたく、一年ほど経過してしまった。

突然、また渡部氏から電話があり「最後にどうしようかと迷い、一日泊まってじっくり見て、過ぎました。自分で残すことに決めました」と。私は電話口に向かって何度も頭を下げ、お礼を言った。移設保存となるが、移設のための解体、材料の湯沢への運搬は既に終わっている。この工事の面倒を全般的に監理しているのは白井晟一研究所である。

(2007. 02. 23)

建築計画部会

部会長 小野田泰明

昨年度は、北海道支部との合同企画を野口孝博北大教授と共に考えていたが、先生の急逝で、年度中の実体化は適わなかった。

社会的には様々な課題が山積している時期にもかかわらず、満足な企画を立てる事が出来なかったのは、部会長を拝命した私の不徳の致す所であり、この場を借りてお詫び申し上げたい。

先の企画はもちろん現在も可能性について調整中であるが、心機一転、立て直すに時期にあることもまた事実であろう、

そこで若いバイタリティのある方に次期の部会長をと考えた。

この件については、高齢者施設研究の若手、東北工業大学の石井敏先生に内々に相談を持ちかけていた所であり、来期からは氏の若いバイタリティで、部会を盛り上げて頂けることと思う。東北支部建築計画部会に今後も変わらぬご支援をよろしくお願い致したい。

地方計画部会

部会長 増田 聡

2003年5月・7月、2005年8月に発生した地震災害以降、東北支部でも地震災害調査WG等の活動が進められました。特に宮城県沖地震の再来が迫る中で、その事前対応、事後対策のいずれの場面においても、行政計画としての地域防災計画に加え、コミュニティ（町内会や自主防災組織）自らが、まちづくりの一環として防災・減災に向けた活動目標・計画をたて、着実に実施していくことが重要となっています。しかしながら現状では、自主防災組織の組織率は上がりつつあるものの、具体的な行動（地域活動）を積極的に展開しているコミュニティは、ごく僅かに留まります。部会員も参加していた2006年度までの文科省防災研究成果事業では、このような状況を打破する一助として、防災情報共有プラットフォーム上に「地域防災力評価システム」を構築しました。宮城県の被害想定結果とコミュニティ活動のチェックリストを併用することで、コミュニティ防災力の点検・評価を可能とするシステムです。

来年度には、本システムを活用して、宮城県・仙台市におけるコミュニティ防災力の空間分布を把握するとともにその高度化に向けた活動に繋げていきたいと思っております。「計画領域」からの参加を歓迎いたします。地方計画部会員の皆様で、防災まちづくり・マップづくりワークショップ等に御協力いただける方は、増田までご連絡下さい。また、一昨年の「全国防災まちづくりフォーラム in 仙台」の後、防災フォーラムというメーリングリストを立ち上げていますので、参加希望の方は、併せてご一報下さい。

・地方計画部会 増田聡 masuda@econ.tohoku.ac.jp

・宮城県沖地震対策研究協議会

<http://www.disaster.archi.tohoku.ac.jp/kyogikai/>

構造部会

部会長 小野瀬 順一

環境工学部会

部会長 持田 灯

1. シンポジウム等

- 1) 研修会「建築設備の耐震診断と免震工法」(4月26日)
- 2) シンポジウム「結露・カビと健康影響」(7月7日)
- 3) 市民公開シンポ「シックハウス症候群についてどこまでわかったか?」(7月8日)
- 4) 第50回東北環境設備研究会「シックスクール問題の現状と今後の動向」(7月24日)
- 5) 公開シンポジウム「住宅における換気システムの現状と課題ー性能検証(コミッションング)の必要性ー」(9月15日)
- 6) 「非構造部材(落下物)と建築設備の地震被害防止方策」(10月12日)
- 7) 第51回東北環境設備研究会「ディスプレイ処理システムの現状と問題点」(10月13日)
- 8) 市民向け公開シンポジウム「都会での大地震ーボクは彼女を守りたいー避難、地盤とトイレ、そして水の確保」(11月14日)
- 9) 第52回東北環境設備研究会「空調機器の現場での風量測定法の最新の技術動向」(1月24日)

2. 見学会等

- 1) 建築文化週間2006「建築ウォッチング」伊達なサステナブル建築探訪(10月28日)。
- 2) 石巻市河北総合支所見学会(12月6日)
3. 支部助成による研究WGの立ち上げ

2006年度支部研究補助費の助成により、「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」のためのWGを立ち上げた。本年は、現在の本支部メンバーにより行われている研究テーマを、空間スケール、時間スケールと関連付けて整理し、分析した。

4. 2期4年間の反省とこれから

筆者は平成15年度から本年度まで2期4年間、部会長をさせて頂いた。この間、空気調和・衛生工学会東北支部、設備技術者協会東北支部、日本技術士会東北支部衛生工学・環境・上下水道部会等と協力し、多くのシンポジウムや見学会を開催することができた。ご尽力頂いた部会メンバーに感謝の意を表したい。

4年前に内海前部会長（宮城高専）からの申し送り事項を基に以下の方針をたてた。

- 1) 計画・意匠系とのつながりを求める。
- 2) 地元のニーズにあった企画をたてる。

この方向に向けて、それなりに努力したつもりであるが、企画が単発に終わり、系統的に進めることができなかったのが残念である。渡辺次期部会長（東北工大）の下で、他分野との継続的、体系的な連携が進むことを期待したい。

材料部会

部会長 金子 佳生

平成18年度の研究課題として、「サステナビリティ確保に向けての建築材料学教材に関する調査研究」を継続テーマに掲げ活動してきた。このテーマは、大学院生に対する教育ツールとして使用することを前提にし、サステナビリティの解釈や定義など根本の部分を含めて、学生にわかりやすく説明する資料としてまとめようとするものである。今年度の課題に対し、下記のとおり活動した。

1. 研究会（5月15日、日本建築学会東北支部会議室）

7名が出席し、今年度の取り組みについて討議した。決定事項は以下である。①昨年度に引き続き、「サステナビリティ確保に向けての建築材料学教材に関する調査研究」を主題として研究を行う。②サステナビリティに関する講師を招いて、次回部会時に講演会を行う。

2. 研究会（9月25日、日本建築学会東北支部会議室）

6名が出席し、「建築分野におけるサステナビリティ確保の現状と課題」と題して、国土技術政策総合研究所 有川智先生をお招きして講演会を開催した。政策面での問題などについてご講演頂き、ディスカッションを行った。その他、「魅力ある大学院教育 大学院オープンセミナー建築材料最前線」に関して意見交換を行った。

3. 研究会（1月9日、日本建築学会東北支部会議室）

8名が出席し、研究課題の進捗状況の確認と研究の方向性について討議した。決定事項は以下である。①サステナビリティに関連した講義のスライドを参考に、教育用ツールの例としてまとめ、今年度の部会活動成果とする。②CD-ROM（もしくはDVD）にまとめ、部会委員に配布する。収録内容

は、サステナビリティ教育用スライド例および参考データとしてテキストに用いられた図表類とする。

以上、3回の研究会を通じて、本年度の研究活動をまとめ、次年度部会活動の方針を決定した。

施工部会

部会長 最知 正芳

本部会では、例年、5回の定例会（委員会）を実施しており、そのうちの2回程度は、施工現場の見学会を併せて開催している。平成18年度においては、第1回の見学会として、5月下旬に仙台空港アクセス鉄道の仙台空港駅本屋、および付帯工事を見学し、第2回の見学会としては、9月中旬に（仮称）仙台共同ビルの新築工事の見学を行なった。

それぞれの現場は、「建築学会創立120周年記念支部共通事業、建築文化週間2006」の「建築ウォッチング」においても、春と秋に公開されている。何れも、本部会の委員の尽力によって実現できたものである。

仙台空港駅の工事は「膜構造建築の新しい表現、その具現化としての現場」として、大変興味深いものであり、ホームに懸かる膜屋根は、多くの空港利用者の目に印象深く映るものと思われた。また、（仮称）仙台共同ビルは、仙台市街のほぼ中心、みずほ銀行敷地内に建設中の高層ビルであり、仙台駅のほぼ正面に位置することから、仙台の新しいランドマークともなる建築物である。「仙台平」をモチーフとした外見もさることながら、中間層免震の採用による話題性もあり、大変興味深いものであった。

本部会の見学会、建築ウォッチングの何れの際にも、担当した委員には、見学者の安全確保や工程上の調整などについて、かなりの気苦労があったことと思われる。このような見学会が毎年実施できるのは、民間の建設会社に所属する委員が多いという、本部会の特色の表われとも言える。

一方、本部会のメインの活動として、年度を超えて進められている「環境にやさしい改修工法事例」の収集は、事例ごとのフォーマットがほぼ固まり、定例会の際に、部位・部材ごとの担当委員からの報告を基に、協議を進めている。収集作業の完遂には、なお時間を要すると思われるので、次年度、あるいはそれ以降も継続して取り組む必要があるものと考えている。

建築デザイン教育部会

部会長 千葉 政継

デザイン教育部会では、ここ数年、学部・大学院 JABEE に関する講演会を開催して来たが、毎年同じようなメンバーが参加するなど広がりが見られていないことから、本年度は

講演会の実施を見送った。

また、耐震偽装事件に関連して2006年末に改正建築士法が成立し、建築系大学・高専のデザイン教育にも影響が及ぶと考えられることから、デザイン教育を取り巻く課題をJABEEに限定せず、少し巾広く考え、あわせて今後の部会運営方針を議論するために2007年3月19日に委員会を開催した。

委員会には相羽康郎（東北芸術工科大学）、大沼正寛（東北文化学園大学）、櫻井一弥（東北大学）、千葉政継が参加し、熊谷広子（宮城工業高専）氏から議事に関する委任のメール、武澤秀一（東北文化学園大学）、松井壽則（日本大学工学部）氏から欠席のメールを頂いた。

始めに相羽康郎委員を新部長に選出し、今後の活動方針について14:00から16:00まで議論を行った。議論の概要をまとめると以下のものであった。

今後取り組むテーマを、①JABEEや建築基準法などのデザイン教育に関する制度面の情報提供と普及活動、②デザイン教育に関する教育機関のネットワークを強める活動、の二つとした。

①については一級建築士試験受験の学歴要件が「所定の学科卒業」から「指定科目の履修」に変わり、実務要件が原則として設計・工事監理業務に限定されることになったが、学会ではJABEE認定と学歴要件とを絡めることなどを要望していることから、今後の状況の変化に関する情報提供が必要であることを確認した。

②については各教育機関のカリキュラム改革に関する情報提供や単位に関わらないデザイン教育の評価やそれに関連する活動のあり方、例えば様々な大学・高専の学生を交えたワークショップの開催などに関して活発な議論が行われた。具体的年間活動は新年度早々に委員会を開いて決定することとした。

東北支部災害調査連絡会

委員長 源栄 正人

2006年度は幸いにして東北地域で発生した地震災害・自然災害はなく、災害調査連絡会としての調査活動を行なうことはなかったが、昨年度から継続で、災害調査連絡会の体制と防災情報共有プラットフォーム（Disaster Information Mutual system; DIMs）の活用について検討を行った。

災害調査連絡会の体制は、連絡調整幹事会の下に、初動調査WG（主査：前田匡樹）、共有プラットフォームWG（主査：源栄正人）および、連絡情報拠点WG（主査：佐藤健）を設置し通常時の活動を行うとともに、災害発生時には、従来のように災害調査WG（主査：災害調査連絡会委員長）を設置するような体制にすることとした。これにともなう内規の見直しについて検討した。

DIMsは文部科学省の防災研究成果普及事業（H16-H18）の一環として構築された。地域の自然情報、社会情報、被

害想定資料、地震動マップなどがデータ・ベース化されており、サーバの管理は宮城県沖地震対策研究協議会と東北大学大害制御研究センターで行なっている。災害発生時には地域の地震観測網連携システムより得られる即時地震動分布推定や即時被害分布推定システムとの連動により効率的な被害調査体制ととることができ、応急危険度判定支援システムと連動している。

このシステムの利用は、登録された利用者がクライアントとしてインターネット経由でサーバにアクセスできる仕組みとなっており、グループ内において自由に情報を共有することができる。災害調査連絡会としてのグループ登録による通常時と災害時におけるDIMsの活用を検討した。

支所だより

青森支所

支所長 千葉 和郎

2006年度の青森支所の活動状況について報告します。

先ず、6月9日（金）に青森市内で幹事会を開催し、今年度の事業計画を検討した結果、例年のとおり「全員協議会」、「東北建築賞受賞作品展示会」を開催することとしました。

7月21日（金）に青森市内の「アラスカ会館」で開催した恒例の全員協議会では、幹事会で決定した新役員の紹介、事業計画及び収支予算等を報告し、会員のご協力をお願い申し上げました。また、長年当支所の幹事として活動され、前年度に他界された故古跡昭彦氏のご冥福をお祈りしました。

さらに、本協議会において、平成18年度文部科学大臣奨励賞を受賞した「名川中学校（統合）の施設計画について」と題しての記念講演を行い、この中学校の建設に至るまでの経緯や取り組みについての説明、さらに具体的施設計画や出来映えに対して、出席者から驚きの声漏れるなど、大きな盛り上がりを見せたところでもあります。最後に生ビールで乾杯……。全員協議会に新しい顔二人。

10月には「東北建築賞受賞作品展示会」を八戸工業大学で開催し、好評を博したところでもあります。

最後に、2007年度も当支所への御支援・御協力をお願いし、報告とします。

秋田支所

支所長 北田透

平成18年度、秋田支所では、今年で35回目の開催となる、「秋田県学生・生徒による建築設計作品コンクール」と昨年度より行っている「建物と風景フォトコンクール」を中心に活動してまいりました。

「建築設計作品コンクール」に応募された作品は、高校の部が13点、大学の部が16点、専門学校の部が16点、地域の部が16点、

自立・活性化、少子・高齢化への提案など、社会性が強く反映された作品が多かったのが特徴でした。

また、「フォトコンクール」は出展数が74点で、風景にとけ込んだ建物をテーマに、豊かな環境との共生、生き生きとした暮らしなどを描きながらシャッターを切った作品はどれも感銘と共感を与えてくれました。

優秀な作品に対しては、知事賞や建築学会支部長賞などを授与し、表彰された作品は平成19年2月27日と28日に秋田市の「秋田拠点センター AL☆VE」において作品展を行い、広く県民の皆様に紹介致しました。

平成19年2月23日に建築設計作品コンクールの表彰式を行い、終了後には当支所と秋田県及び県内建築関係団体との共催事業として、講師に（株）青島裕之建築設計室の青島裕之氏をお招きし、「地域を活かす建築」と題し講演会を開催しました。講演会は、一般の方も含め約150名の参加者があり好評を博す事が出来ました。

岩手支所

支所長 澤口 政登志

2006年度の岩手支所の活動状況について報告します。

今年度は、昨年度に引き続き、住情報交流の場として恒例となった、岩手県や盛岡市などが主催し開催している「いわて住宅祭」に併せて「東北建築賞受賞作品展示会」を開催しました。

いわて住宅祭は今年度で23回目の開催ですが、同じく岩手県や盛岡市などが主催し開催しているいわてクリーンエネルギーフェアと4回目の合同開催として、「住まエネフェスタ2006」と題して9月1日（金）から3日（日）の3日間開催され、1万8千人を超える来場者がありました。これからも、この機会を利用して、より多くの方々に、建築学会の活動を周知していきたいと考えております。

また、毎年開催されている盛岡市主催の「第30回盛岡市都市景観シンポジウム」が、11月22日（水）に開催され、当支所でも後援をしました。

今回は、盛岡市都市景観シンポジウムが昭和55年に第1回が開催されて以来、27年目の今年で30回を数えることとなり、昨年1月に盛岡市と合併した玉山村にちなんで石川啄木が愛した詩情豊かな景観について「ひろがるもりおかの魅力Ⅱ ～玉山区の景観～」をテーマに、この地区の代表的な景観として姫神山や岩手山の眺望をはじめとする自然景観、そのなかで育まれた歴史的・文化的景観や史実・伝承など、玉山区の魅力について熱心なパネルディスカッションが行われました。

今後とも、建築関係のイベントなどに主催や後援するなど、機会をとらえて学会と地域社会との交流を図る諸事業を開催していきたいと考えております。

山形支所

支所長 井上 憲太郎

2006年度の山形支所の活動について報告いたします。今年度は、2つの「親と子の建築講座」を中心に活動してまいりました。

10月1日には、2006親と子の建築講座の第1弾として「よねざわレトロ館めぐり」を開催し、親子9組を含め、28名の方々に参加していただきました。子供たちに建築の楽しさを感じてもらうことを目的として5回目の開催となった今回も、子供達にとっては建築に興味を持ってもらうこと、大人の参加者にとっては歴史的建築物の保存・活用に対する意識を持ってもらうことの良ききっかけ作りとなったと思っております。

10月22日には、2006親と子の建築講座の第2弾として「コンピューターによる住宅モデル作成」を開催し、親子6組を含め、12名の方々に参加していただきました。参加者全員に、建築3次元CADを使用した空間シミュレーションを行っていただきました。親子それぞれが思い思いの小住宅を完成させ、出来上がったパースとウォークスルーアニメーションを見たときの感想からは、本講座の「建築をデザインする楽しさを体験する」という目的を十分に達成していただけたと思っております。

これらイベント等の開催には、関係団体、学校等多くの方々の協力をいただきました。今後もこのようなイベントをはじめとして、関係団体のご協力を仰ぎながら、活発な活動を推進していきたいと思っております。

福島支所

支所長 武井 一

今年度の福島支所は、「建築を知る環境講座」及び「第26回東北建築賞作品展示会」を中心に活動してまいりました。

「建築を知る環境講座」は、昨年12月に郡山市の県農業総合センターを会場に講演と現地見学会を開催し、100名の参加を得て盛況のうちに終えることができました。

講演は、会場の構造計画にも携わった構造設計家の播茂氏に「木質系空間構造の展開」と題し講演いただいた訳ですが、木材の特質を生かした空間づくりの思考方法が、多くの参加者に十分に伝わったものと確信しております。今後、地域の木材の活用を考えるうえでひとつの手がかりになってくれることを切に願います。

現地見学会では、構造や自然換気システムなど特色のある箇所を中心に播氏や工事監理担当者の説明を交えながら、「聞・見・触」の体験ができたと感じております。

また、「第26回東北建築賞受賞作品展示会」では、昨年12月に続き「日本大学工学部建築学科卒業設計展」との同時開催といたしました。学生の夢のある作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで多くの建築作品が並び、建築関係

者はもとより、一般市民にとっても、見応えのある展示会になったのではないかと感じております。

今後とも地域の学校や関係団体との連携・協同を行い、さらなる事業の充実に心がけてまいりたいと思います。

常議員会から

常議員 土方 吉雄

常議員会は、支部長、14名の常議員（総務・企画4名、社会・文化3名、学術・教育3名、会計・会員2名、図書・情報2名）、支部長から任命された企画運営委員（2名）及び支部監事（2名）並びに支所長（青森支所・秋田支所・岩手支所・山形支所・福島支所）で構成されている。なお、常議員会の開催に当っては、総務会（支部長と総務・企画担当常議員）で議事内容などを検討している。また、9月に支部長、総務・企画担当常議員も出席して、支所長会議を実施している。

常議員会は、原則として毎月行われるが、議案が少ない場合には、ネットワーク会議としている。常議員会では、様々な議題が取り上げられ、支部活動が円滑に行われるよう努めている。また、学会本部の活動状況を踏まえた支部活動ができるよう、常議員会の冒頭で、理事会及び支部長会議の審議・報告内容が紹介される。本年度の常議員会で取り上げられた主な議事・報告のタイトルを要約して以下に示す。

【2005年4月ネットワーク会議】みちのくの風2006秋田の進捗状況、支部事務局員の待遇及び2006年度予算案、創立120周年記念支部共通事業の進捗状況、建築文化週間企画、支部総会、次期常議員の選挙開票報告と役割分担、支部年報の編集状況、2005年度決算報告、2006年度文部科学省科学研究補助費の採択結果報告

【5月】みちのくの風2006秋田の進捗状況、総会及び関連イベントの準備確認、第27回東北建築賞募集、創立120周年記念事業の見学会

【6月】年間行事予定及び役割分担、理事会への支部長代行者、創立120周年記念事業の作業所見学会、JIA東北住宅大賞及び震災対策技術展への後援名義使用依頼、学会活性化方策、理事会報告、みちのくの風2006秋田の開催報告、「作品選集2007」応募結果の報告、5月会計報告、支部事務機入れ替えの報告

【7月ネットワーク会議】みちのくの風2007岩手の会場、学会賞（論文）の推薦、支部研究補助費運営、支所長会議の日程、2007年度東北支部総会の日程、理事会報告、日本建築学会設計競技支部審査の結果報告、「作品選集2007」支部審査会の審査経過と費用報告、創立120周年記念事業の作業所見学会実施報告、

【9月】選挙管理委員会の設置、「提案競技一美しくまちをつくる、むらをつくる」表彰式、特色ある支部活動の企画提出、2007年度日本建築学会設計競技の課題、2007年度

大会研究集会テーマ募集、2007年度日本建築学会文化賞候補及び大賞業績候補の推薦、みちのくの風2007岩手、東北支部研究補助費運営方針並びに支部研究委員会見直し、シンポジウム「非構造部材（落下物）と建築設備の地震被害防止方策」への後援名義使用依頼、理事会・支部長会議報告、建築文化週間事業、「作品選集2007」支部推薦報告、「第17回東北建築賞」応募報告及び作品発表会、「提案競技一美しくまちをつくる、むらをつくる」応募報告、第8期代議員および支部役員選挙日程、6,7,8月会計報告

【11月】支部研究報告会募集要項、「作品選集2008」選考委員の選定、「2007年度日本建築学会設計競技」選考委員の選定、みちのくの風2007岩手、2007年度支部総会、学会活性化方策、理事会報告、代議員・常議員候補者届出状況、第17回東北支部作品発表会報告、2006年度日本建築学会設計競技全国審査報告、特色ある支部活動結果報告、2007年度文部科学省科学研究補助費申請状況、9月会計報告

【2006年1月】研究補助費の運用、2007年度支部総会及び関連イベント、支部年報27号発刊計画、みちのくの風2007岩手、「2008年作品選奨」委員推薦、学会活性化方策、理事会報告、「JASS6・鉄骨工事指針・鉄骨工事制度測定指針」改定講習会、10,11,12月会計報告、「作品選集2008」の東北支部選考部会委員、「設計競技2007」東北支部審査委員、次期代議員・支部長・常議員候補者届出

【2月ネットワーク会議】みちのくの風2007岩手の進捗状況、2007年度支部総会、2007年度講習会事業計画、本部・支部研究補助費の申請、支部事務局員の待遇、常議員会のテレビ会議化、「JASS6・鉄骨工事指針・鉄骨工事制度測定指針」改定講習会実施報告、東北建築賞審査結果報告、理事会報告

【3月】2007年度予算(案)、秋田支所業務、災害時の調査協定、2007年度支部総会と付随行事、みちのくの風2007岩手の進捗状況、2007年度「建築文化事業」開催、研究補助費申請、Web会議導入、研究委員会規則改定報告、全国大学・高専卒業設計展の日程、支部功労会員、1,2月会計報告、理事会報告

支部役員名簿

東北支部常議員・企画運営委員の構成と役割分担

役割	2006年度 (2006年6月～2007年5月)	2006年度 (2007年6月～2008年5月)
支部長	倉田 光春(日本大)	倉田 光春(日本大)
総務企画	大野晋 (東北大) 山田寛次 (秋田県立大) 土方吉雄 (日本大) 大沼 正昭 (東北工大)	土方吉雄 (日本大) 大沼正昭 (東北工大) 佐藤 健(東北大) 陳 沛山(八戸工大)
社会文化	宮腰直幸 (八戸工大) 氏家清一((株)氏家建築設計事務所) 長谷川兼一(秋田県立大)	長谷川兼一(秋田県立大) 氏家清一((株)氏家建築設計事務所) 若松信行(アトリエノルト)
学術教育	槻橋 修 (東北工大) 野内英治 (日本大) 西脇智哉 (山形大)	西脇智哉 (山形大) 市岡綾子(日本大) 鈴木博司(東北工大)
会計会員	横山直樹 (仙台市) 小澤成昭 (JR 東日本)	小澤成昭 (JR 東日本) 関口美恵子(仙台市)
図書情報	山畑信博 (芸工大) 五十嵐太郎 (東北大)	五十嵐太郎 (東北大) 竹内昌義(芸工大)
企画運営		
事務局	渡辺美香	大場美香

研究部会長

研究部会	部会長
構造	小野瀬順一(東北工業大学教授)
材料	伊藤憲雄(宮城工業高等専門学校教授)
建築計画	石井 敏(東北工業大学准教授)
地方計画	増田 聡(東北大学教授)
歴史意匠	西野敏信(東北工業大学教授)
施工	最知正芳(東北工業大学准教授)
環境工学	渡辺浩文(東北大学准教授)
デザイン教育	相羽康郎(東北芸術工科大学教授)
災害調査連絡会	源栄正人(東北大学教授)

東北支部会員数 (2007年4月1日現在)

名誉会員	2名	準会員	11名
終身会員	53名	賛助会員	8法人
正会員(個人)	1,342名		
正会員(法人)	52法人		

東北支部監事

2006年6月～2007年5月

高砂秀敏(仙台市)
八巻正信(JR 東日本)

2007年6月～2009年5月

八巻正信(JR 東日本)
横山直樹(仙台市)

東北支部選出代議員

任期	代議員
2006年4月 ～ 2008年3月	若井正一(東北大学教授) 小山 剛(東日本旅客鉄道(株)仙台支社整備部工務課副課長) 山田大彦(東北大学教授) 月舘敏栄(八戸工業大学教授)
2007年4月 ～ 2009年3月	武 修司(仙台市都市整備局公共建築部営繕課長) 高橋 恒夫(東北工業大学教授) 出村 克宣(日本大学教授) 源栄 正人(東北大学教授)

支所長

支所	支所長
青森支所	千葉和郎(青森県総務部工務検査課建築工事検査監)
秋田支所	安原盛彦(秋田県立大学建築環境システム学科教授)
岩手支所	鈴木 徹(岩手県土整備部建築指導担当課長)
山形支所	井上憲太郎(山形県土木部建築住宅課課長)
福島支所	佐々木孝男(福島県土木部建築領域建築指導グループ参事)

2006 年度事業報告

〈事務の部〉

総 会	1. 2005 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2006 年度事業計画・予算案	2006 年 5 月 13 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (9)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (4)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (1) 作品選集選考委員会 (2)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 植松 康、佐藤彰芳、細田洋子、三浦金作 (新任) 若井正一、小山 剛、月舘敏栄、山田大彦	2005 年 4 月～2007 年 3 月 2006 年 4 月～2008 年 3 月
支部長改選	(退任) 近江 隆 (新任) 倉田光春	2004 年 6 月～2006 年 5 月 2006 年 6 月～2008 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 小野田泰明、佐藤慎也、佐藤忠幸、出村克宣、原田和幸、船木尚己、八巻正信 (留任) 大野 晋、槻橋 修、野内英治、宮腰直幸、山田寛次 山畑信博、横山直樹 (新任) 五十嵐太郎、氏家清一、大沼正昭、小澤成昭、西脇智哉、長谷川兼一、土方吉雄	2004 年 6 月～2006 年 5 月 2005 年 6 月～2007 年 5 月 2006 年 6 月～2008 年 5 月
企画運営委員	細田洋子、山北孝治	2006 年 6 月～2007 年 5 月
支部監事	高砂秀敏、八巻正信	2006 年 6 月～2007 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 小野瀬順一 構造技術における新しい試み 材 料 : 金子佳生 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究 建築計画 : 小野田泰明 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 安原盛彦 歴史的建築における空間論 環境工学 : 持田 灯 ・木質バイオマス利用 ・高齢化社会における環境工学の問題 ・都市のコンパクト化に伴う環境工学上の問題 ・東北の地域特性に根ざした都市環境計画 施 工 : 最知正芳 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 千葉政継 建築教育の充実を JABE の発足、UIA 認定の開始を目前に大学院教育をも含めたプログラムで考える 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
支部研究助成金による研究	東北地方の建築・都市の総合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 環境工学部会 (研究責任者 内海康雄)	2006 年 4 月～2007 年 3 月
支部研究報告会	2006 年度東北支部研究報告会、研究報告集第 69 号計画系・構造系 刊行 発表題 124 題	2006 年 6 月 17 日～18 日 秋田県生涯学習センター 分館「ジョイナス」
支部主催 支部共催 イベント	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 仙台市内と福島支所で開催予定 2) 第 17 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 3) 第 27 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2006 秋田 ・支部研究報告会と招待講演会	2006 年 10 月 2006 年 9 月 30 日 せんだいメディアテーク 2006 年 6 月 17 日～18 日 秋田県生涯学習センター

	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション 「地球環境時代のまちづくり-Winter City からの発信-」 ・第26回東北建築賞授賞式 ・第26回東北建築賞受賞作品展示会 <p>1. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業</p> <p>① 仙台会場 =南材木町・河原町 まちたんけん =地域の歴史をいかしたまちづくりを考えよう</p> <p>② 山形会場「やまがたレトロ館めぐり」</p> <p>③ 山形会場「コンピューターによる住宅モデル作成」</p> <p>2) 第26回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、八戸市、秋田市、郡山市</p>	<p>分館「ジョイナス」</p> <p>2006年7月</p> <p>2006年10月</p> <p>2006年10月</p> <p>2006年10月～2007年3月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム(2)</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会(6)・研究会(2)・見学会(2)などを適宜開催</p>	<p>2006年4月～2007年3月 ()は開催数</p>
表彰	<p>1. 第26回東北建築賞作品賞 作品賞2点、作品奨励賞1点、研究奨励賞1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰3名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰1名</p>	<p>2005年6月17日 秋田県生涯学習センター 分館「ジョイナス」</p> <p>2006年5月13日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第26回東北建築賞作品展示会：八戸市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会 ・第35回建築学科生徒による建築設計作品コンクール：秋田市 ・第26回東北建築賞作品展示会：秋田市 <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第26回東北建築賞作品展示会：盛岡市 ・第33回県内工業高校生徒設計製図作品コンクール後援 ・第37回県下工業高校設計作品コンクール：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第26回東北建築賞作品展示会：山形市 ・親と子の建築講座「やまがたレトロ館めぐり」：山形市 ・親と子の建築講座「コンピューターによる住宅モデル作成」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第26回東北建築賞作品展示会：郡山市 	<p>2006年10月</p> <p>2006年8月</p> <p>2007年3月</p> <p>2007年3月</p> <p>2006年9月</p> <p>2007年2月</p> <p>2007年2月</p> <p>2007年1月</p> <p>2006年10月</p> <p>2006年10月</p> <p>2007年2月</p>
刊行活動	<p>支部年報第26号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第69号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集(第17号)発行</p>	<p>2006年5月13日</p> <p>2006年6月17日</p> <p>2006年10月1日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	支部共通講習会1月頃に開催	2007年1月
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 仙台市、八戸市、郡山市、山形市、本荘市	2006年6月～2007年1月
審査会	2006年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生 日本建築学会「作品選集2007」	2006年7月 2006年6月～9月
建築学会創立120周年記念事業	提案競技(学会会員向け) 絵画コンクール(小中学生向け) 写真コンクール(一般向け)	2006年10月 秋田県由利本荘市

2007 年度事業計画（案）

〈事務の部〉

総 会	1. 2005 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2006 年度事業計画・予算案	2007 年 5 月 12 日 情報産業プラザ・セミナーホール
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (10)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (4)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (1) 作品選集選考委員会 (2)、研究部会連絡会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 若井正一、小山 剛、月舘敏栄、山田大彦 (新任) 武 修司、高橋恒夫、出村克宣、源栄正人	2006 年 4 月～2008 年 3 月 2007 年 4 月～2009 年 3 月
支部長改選	(留任) 倉田光春	2006 年 6 月～2008 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 大野 晋、槻橋 修、野内英治、宮腰直幸、山田寛次 山畑信博、横山直樹 (留任) 五十嵐太郎、氏家清一、大沼正昭、小澤成昭、西脇智哉、 長谷川兼一、土方吉雄 (新任) 市岡綾子、鈴木博司、関口美恵子、竹内昌義、佐藤 健、 陳 沛山、若松信行	2005 年 6 月～2007 年 5 月 2006 年 6 月～2008 年 5 月 2007 年 6 月～2009 年 5 月
企画運営委員		
支 部 監 事	八巻正信、横山直樹	2007 年 6 月～2008 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 小野瀬順一 構造技術における新しい試み 材 料 : 伊藤憲雄 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究 建築計画 : 小野田泰明 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 西野敏信 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 渡辺浩文 ・木質バイオマス利用 ・高齢化社会における環境工学の問題 ・都市のコンパクト化に伴う環境工学上の問題 ・東北の地域特性に根ざした都市環境計画 施 工 : 最知正芳 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 相羽康朗 建築設計教育の充実を世界的観点から再調査する 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	Web-GIS 等を活用したコミュニティ防災力の評価と高度化 地方計画部会 (研究責任者 増田 聡) 東北地方の建築・都市の総合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 環境工学部会 (研究責任者 内海康雄)	2006 年 4 月～2007 年 3 月 2006 年 4 月～2007 年 3 月
支部研究報告会	2007 年度東北支部研究報告会、研究報告集第 70 号計画系・構造系 刊行 発表題 119 題	2007 年 6 月 9 日～10 日 岩手県県民情報交流センター「アイーナ」

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業 山形支所と福島支所で開催予定</p> <p>2) 第18回「東北建築作品発表会」の開催（仙台市）</p> <p>3) 第28回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2007 岩手 ・支部研究報告会と招待講演会 ・パネルディスカッション 「地域固有の文化、歴史を生かしたまちづくり」 ・第27回東北建築賞授賞式 ・第27回東北建築賞受賞作品展示会並びに JIA 岩手作品展</p> <p>1. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業 ① 山形会場「やまがたレトロ館めぐり」 ② 山形会場「コンピューターによる住宅モデル作成」</p> <p>2) 第27回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、八戸市、秋田市、郡山市</p>	<p>2007年10月</p> <p>2007年9月 福祉プラザ</p> <p>2007年6月9日～10日 岩手県県民情報交流センター「アイーナ」</p> <p>2007年10月 2007年10月 2007年6月～2008年3月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第27回東北建築賞作品賞 作品賞2点、作品奨励賞2点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰3名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 法人3社、個人2名</p>	<p>2007年6月9日 岩手県県民情報交流センター「アイーナ」</p> <p>2007年5月12日 情報産業プラザ・セミナーホール</p>
支所活動	<p>青森支所 ・全員協議会 ・第27回東北建築賞作品展示会：八戸市</p> <p>秋田支所 ・第27回東北建築賞作品展示会：秋田市</p> <p>岩手支所 ・第27回東北建築賞作品展示会：盛岡市</p> <p>山形支所 ・第27回東北建築賞作品展示会：山形市 ・親と子の建築講座「やまがたレトロ館めぐり」：山形市 ・親と子の建築講座「コンピューターによる住宅モデル作成」</p> <p>福島支所 ・第27回東北建築賞作品展示会：郡山市 ・建築を知る環境講座</p>	<p>2007年10月 2007年8月</p> <p>2008年3月</p> <p>2007年9月</p> <p>2007年1月 2007年10月 2007年10月</p> <p>2008年2月 2007年10月</p>
刊行活動	<p>支部年報第27号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第70号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集（第18号）発行</p>	<p>2006年5月13日</p> <p>2006年6月17日</p> <p>2006年10月1日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	支部共通講習会2月頃に開催	2008年2月
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 仙台市、八戸市、郡山市、山形市、本荘市	2007年6月～2007年10月
審査会	2007年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：人口減少時代のマイタウンの再生 日本建築学会「作品選集2008」	2007年7月 2007年6月～9月

法人・賛助会員

阿部建設(株)
伊藤組土建(株)
大槻電設工業(株)
株大林組
株関・空間設計
株奥村組
鹿島建設(株)
株久米設計
株熊谷組
五洋建設(株)
清水建設(株)
仙建工業(株)
大成建設(株)
株竹中工務店
鉄建建設(株)
戸田建設(株)
株ユアテック
西松建設(株)
りんかい日産建設(株)
株間組
株フジタ
堀江工業(株)
前田建設工業(株)
升川建設(株)
ピーエス三菱東北支店
三菱地所設計
株山下設計
株梓設計
株伊藤喜三郎建築研究所
東日本興業(株)
佐藤工業(株)
北洲ハウジング
株設計集団空
東北ポール(株)
株昴設計
株みちのく設計

東北ドック鉄工(株)
千田総兵衛建築事務所
株内海建築事務所
株蔵王建築設計事務所
株都市構造研究センター
株東北設計計画研究所
株本間利雄設計事務所+地域環(株)清水公夫研究所
旭化成建材(株)
東日本旅客鉄道(株)東北工事事務所
東北電力(株)
株NTT ファシリティーズ
(社) 日本電設工業協会
東北空気調和衛生工事業協会
東北文化学園専門学校
日刊建設産業新聞社
株志賀設計
株田村設計室
株佐藤総合計画
株氏家建築設計事務所
株ダイテック
東北文化学園大学
株若松六本木設計
エヌ・ティ・ティ都市開発(株)
東北設備工業(株)
ムツ電
三友電設(株)
元旦ビューティー工業(株)
56 法人 4 月現在